

平成 19 年度障害者自立支援調査研究プロジェクト 事業実施報告概要

|            |  |
|------------|--|
| 事業名        | 注意障害改善のためのワーキングメモリートレーニング事業  |
| 事業目的       | <p>発達障害者支援法の対象障害の一つである注意欠陥／多動性障害（以下 ADHD）の主症状である注意障害には、ワーキングメモリーが大きく関与することはこれまでの研究から明らかである。</p> <p>（ex, Baekley, R. A. 2006）。本事業では、海外でワーキングメモリーのシステムティックなトレーニングにより注意障害の改善が実証されている手法（ex, Klingberg T, 2005）を日本で実施し、科学的評価を行う。また今後、日本の社会・文化的背景により適したトレーニングにするための課題を検証した。</p>  |
| 事業概要       | <p>対象：えじそんくらぶの会員 小学生～大学生 計85名。</p> <p>実施内容：スウェーデンから講師を招聘して、3日間の講習を受けたコーチが約2ヶ月にわたって対象者にトレーニングを指導する。</p> <p>トレーニング前後の行動面のアセスメントを行い、北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター（室橋春光先生・田中康雄先生）に分析を依頼した。欧米における完了率（96%）ならびに、トレーニング直後の明らかな効果の出現率（80%）、さらに6ヵ月後の効果持続あるいは増進の比率（80%）などの実績との比較、課題・改善点の明確化する。</p> <p>40名に対しては、更に詳しいアセスメント（ストループ、CBCL等）を実施。</p> <p>3月8日に北海道大学で中間報告会を開催した。3月31日までに終了したケースを集計し、最終報告書は4月に作成。</p> |
| 事業実施結果及び効果 | <p>訓練結果について、諸データの揃った29名を分析した。全員が、最高インデックス値は初期インデックス値を上回った。保護者による訓練後評価値は、不注意、多動・衝動性項目とも、訓練前よりも有意に低下した。しかしインデックス値差（伸び）と訓練前後の評価値差の相関は低く、評価の改善には、訓練事態の間接的効果も含まれることが示唆された。（北大・室橋春光）</p> <p>WMTを行うことで保護者は、多動性や行動的な問題についての変化はあまり感じないが、注意への評価はかなり改善を示し、子ども本人は、注意よりも社会性の問題の改善という自覚を得た。しかし、被験者が20名で、WISCは12名、CBCLの自己評価は8名のデータしかないため、今後対象者を増やしての検証が求められる。（北大・田中康雄）</p>  |
| 事業主体       | <p>〒358-0003 埼玉県入間市豊岡 1-1-1-924</p> <p>特定非営利活動法人えじそんくらぶ</p> <p>TEL : 04-2962-8683 E-MAIL : info@e-club.jp</p>  |